

よく消磁できるようです。

電源装置の利用例をあげてきましたが、これらのほか、光の実験の中で光源ランプの電源にも利用することもできます。P.22をごらん下さい。

また、電池の充電にも利用できます。なお、「電流による発熱」の実験にも利用できますが、新指導要領では削除されますので、取りあげませんでした。

(注1) これまで取り上げてきた電源装置は、小型のもので各テーブル毎のグループ実験に適しています。

電源装置には、このほか写真-13に示すような大型のものがあり、これは40 Aとか60 Aとか大容量の電流を取り出せます。これを準備室あたりにおいて、これから送電パイプを通して各テーブルに送電する方式を取るわけです。

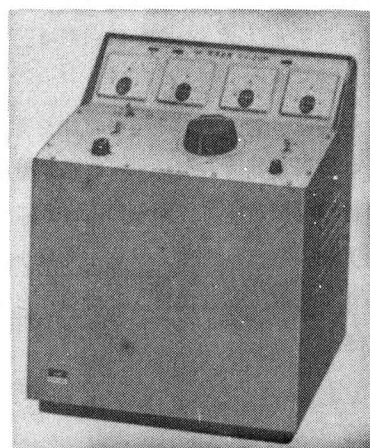


写真-13

(注2) P.15の※について。つぎの実験ができる。

- (1) 電流が流れると磁針がふれる。(図-21)
- (2) 電流が強い程磁針のふれの角は大きい。(図-21)
- (3) 電流の向きと磁針のふれの向きの関係。(図-21)
- (4) 巻数が多いと磁針のふれの角は大きい。(図-22)

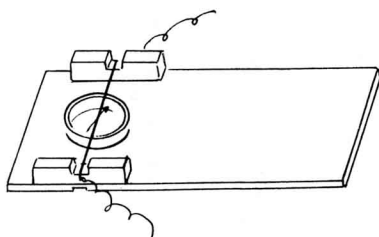


図-21

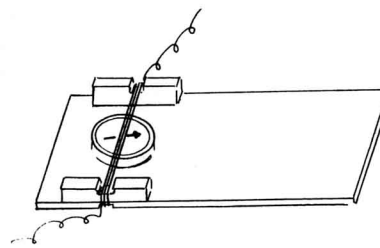


図-22